

# 東京工業大学 大学院イノベーションマネジメント研究科

技術経営専攻(専門職学位課程:修士)  
イノベーション専攻(博士後期課程)

---

Tokyo Institute of Technology  
Graduate School of Innovation Management

Management of Technology Department  
Innovation Department



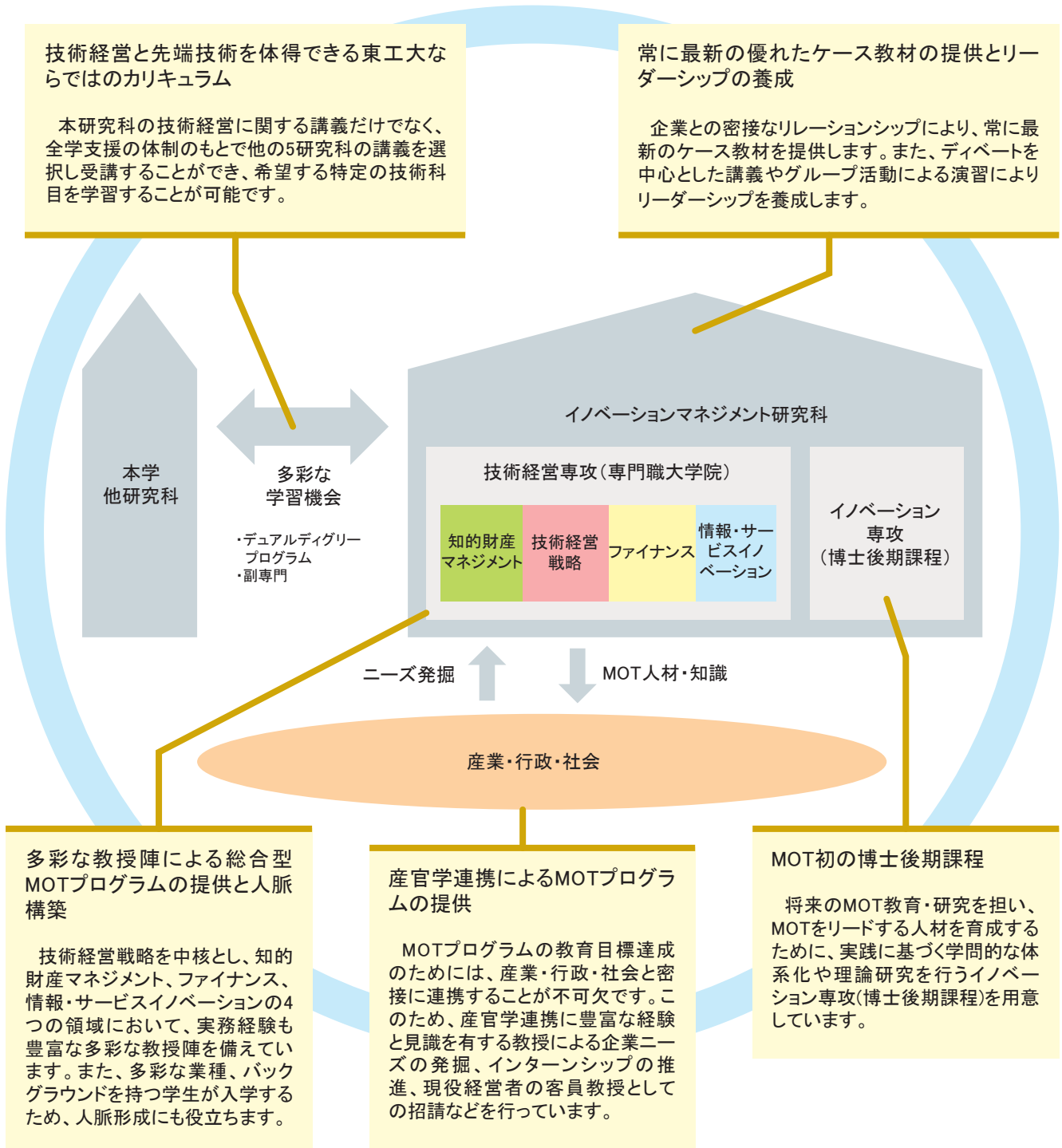
東京工業大学  
Tokyo Institute of Technology

# イノベーションマネジメント研究科の特色

2005年4月に創設された大学院イノベーションマネジメント研究科は、MOT専門職大学院(専門職学位課程:修士)の技術経営専攻と、博士後期課程のイノベーション専攻からなり、「技術を創造し、知的資産として事業化・社会化するイノベーション創出サイクルのマネジメントに秀でた実践の人材と研究者を育成する」ことを目的としています。教育研究分野として、技術経営戦略分野、知的財産マネジメント分野、情報・サービスイノベーション分野、ファイナンス分野の4つの分野を設けています。

先行きが不透明な中で未来を切り拓いていくため、産業・企業にとっては既存ビジネスの再構築や新ビジネスの創造が大きな課題となっており、イノベーション創出のマネジメントである技術経営(MOT)がますます重要になっています。

## 東工大MOTの特色



# イノベーションマネジメント研究科のポリシー

## 技術経営専攻の教育ポリシー 【専門職学位課程】

### 人材養成の目的

イノベーション創出のリーダーとして、科学・技術を活用し産業や社会の発展に貢献する実務家を養成します。

### 入学者に求める資質と能力

本専攻では、次のような能力と適性をもつ人材を求めます。

- ・自らの経験から得た知識や習得した知識を基に、現状を踏まえて論理的かつ客観的に思考し、表現できる
- ・豊かで幅広い知識を有し、様々な視点で多面的にものごとを捉えることができる
- ・国際的に活動できる語学力を有している
- ・向上心にあふれ、社会を主導する意欲を有している

### 修得する能力

イノベーション創出のリーダーとして、科学・技術を活用し産業や社会の発展に貢献する実務家に必要とされる、次のような能力を修得します。

- ・科学・技術をもとに新たな価値を生み出す力
- ・グローバルな視野と高い倫理観から組織のビジョン・戦略を策定する力
- ・経営的な課題を解決するための理論を自ら構築する力
- ・既存の枠組みにとらわれず、社会を変革する力
- ・自らの考えを的確に伝えるコミュニケーション力

## イノベーション専攻の教育ポリシー 【博士後期課程】

### 人材養成の目的

科学・技術の分野における最先端の知識と理論に基づき、現代社会の諸問題に対して科学的に解決することができる人材を養成します。

### 入学者に求める資質と能力

本専攻では、入学者に次のような能力と適性をもつ人材を求めます。

- ・科学・技術の分野において自立した研究者として活動し社会に貢献するために十分な基礎学力、知識、探究心を有すること
- ・英語による研究および情報発信能力を有すること

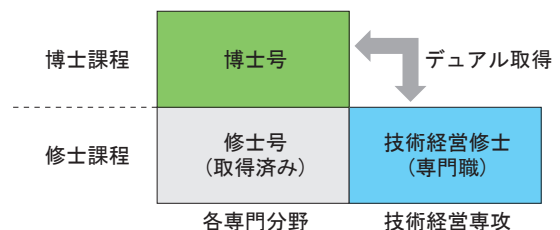
### 修得する能力

- ・専門分野において水準が高く独創性があると認められる研究を行い、学位論文を執筆する能力
- ・当該分野の専門家としてその分野を深く極め、その知見によって社会に貢献することができる能力

## デュアルディグリープログラム

本学他研究科博士後期課程と技術経営専攻(MOT専門職修士課程)に在籍し、博士学位と技術経営修士(専門職)の同時取得を目指すことができるデュアルディグリープログラムを設けています。

先端技術の研究を行うとともに、より実践的な力を身につけるために技術経営を学ぶことにより、修了後に直ちに実社会で活躍できる人材、すなわち高度専門職業人を育成します。



# 社会人学生に配慮したキャンパスと講義時間

## 技術経営専攻（専門職学位課程：修士）

学位：技術経営修士（専門職）  
 入学定員：40名  
 標準修了年限：2年

技術経営専攻（専門職学位課程：修士）では、技術経営戦略を中核として、知的財産マネジメント、ファイナンス、情報・サービスイノベーションを加えた4つの教育研究分野を設定しています。

技術をベースにしたビジネスに携わる社会人を対象として、イノベーション創出サイクルに関わる戦略的かつ創造的なマネジメントをグローバルな視点からリーダーとして遂行する人材を育成します。

知的財産マネジメント及び金融工学の分野における必要科目を充実させ、学生のニーズにより、知的財産マネジメントや金融工学分野の高度な専門家として、企業や自治体や国際機関、産官学連携を主導する組織において即戦力となる人材養成を目指します。

## イノベーション専攻（博士後期課程）

学位：博士（技術経営）、博士（学術）または博士（工学）  
 入学定員：10名  
 標準修了年限：3年

イノベーション専攻（博士後期課程）では、技術開発や経営の経験が豊富な社会人を主な対象として、自身が持つ実務経験に基づく学問的な体系化や理論研究を行うことができます。MOTの戦略的な強化を図る我が国の期待に応え、本専攻では、博士号取得者としてMOTの教育研究者や企業・組織体の経営者、MOT責任者を輩出することを目指します。

### 社会人学生に配慮したキャンパス

大岡山キャンパス・田町キャンパスは、それぞれ東急大井町線目黒線大岡山駅・JR田町駅から徒歩1分の便利な場所にあります。

田町・大岡山キャンパス間の移動は、東急目黒線及び都営三田線の相互乗り入れにより、直通で約30分です。



大岡山キャンパス



田町キャンパス

### 社会人学生に配慮した講義時間

社会人学生の利便性を考慮し、約半数の科目は都心に位置する田町キャンパスにて開講します。

また、両キャンパスでの開講科目を曜日によって集中させ、学生の移動の負担を最小限とするよう配慮しています。

時限	時間帯	月	火	水	木	金	土
1-2	9:00-10:30						
3-4	10:45-12:15						○
5-6	13:20-14:50						○
7-8	15:05-16:35	○	○	○	○	○	○
9-10	16:50-18:20	○	○	○	○	○	○
11-12	18:30-20:00	○	○	○	○	○	

### 研究・学習環境

#### 研究室



より良い環境で研究活動に従事することが出来るよう部屋を整備しています。学生は各自自由に利用することができます。

#### 机



常駐する学生は専用の机と椅子が、社会人学生はチェスト（引き出し）が使用できるようになっています。デスクライトや電源タップも必要ところに配置され長時間の学習に対応できる環境となっています。

#### ICTインフラ



研究科では無線LAN環境が提供され、学習研究のために使用することができます。

#### ゼミ風景



研究室ごとに定期的にゼミが行われています。少人数精鋭のゼミでは活発な議論が取り交わされ充実したものになっています。また経験豊かな社会人学生の参加によりインタラクティブな知的刺激の場になっています。

# 研究科目群・専門科目群からなる豊富なカリキュラム

## カリキュラム

技術の創造から事業化までイノベーション創出サイクルを効果的に循環させるための戦略・管理・運営をリーダーシップをもって遂行できる人材を育成するために、以下の研究科目群・専門科目群からなる、総合型技術経営のカリキュラムを用意しています。

- ・ 研究科目群（講究科目、研究関連科目）
- ・ 技術経営戦略科目群
- ・ 知的財産科目群
- ・ ファイナンス科目群
- ・ 情報・サービスイノベーション科目群
- ・ 演習・インターンシップ
- ・ 他専門科目

## 開講科目

	授業科目	基礎	発展
研究科目群	講究科目	技術経営講究第一(必修) 技術経営講究第二(必修) 技術経営講究第三(必修) 技術経営講究第四(必修)	
	研究関連科目	リサーチ・リテラシー演習(1)	
専門科目群（専攻専門科目・他専門科目）	技術経営戦略科目群	技術経営概論(1) 企業戦略とイノベーション(1) 経営の歴史と理念(1) イノベーション論(1) R&D戦略(1) イノベーションと産官学連携(1) 技術者倫理とリスク管理(1)	経営者論セミナー(1) 企業実践セミナー(1) 技術戦略論(1) 技術組織論(1) 技術マーケティング(2) 品質マネジメント(1) コンピテンシー・ディベロプメント(2) 食ビジネス創成論(2) 食の未来と技術(2) 会計情報と資本市場(2)
	知的財産科目群	IPマネジメント(1) 実践知的財産保護(1) 知的財産権法(1) イノベーションと標準化(1)	R&D戦略と知的財産戦略(1) 企業経営における知的財産活動(1) ライフサイエンス知財と国際制度(2) 知的財産権侵害実務(2)
	ファイナンス科目群	金融工学(1) コーポレートファイナンス(1)	金融リスク・マネジメント(2) ファイナンス応用(2) 計算ファイナンス(2) 金融リスク管理の最先端(2) 金融工学特論1(2) 国際投資戦略(2)
	情報・サービスイノベーション科目群	組織戦略とICT(1) テレワーク概論(1) サービスイノベーション論(1) サービス科学基礎学(1) コミュニケーションデザイン論(1) サービス・イノベーション概論(1)	セキュリティマネジメント(2) ネット社会のビジネスモデル(2)
	演習・インターンシップ	戦略的ディベートの実践(1) 技術経営インターンシップⅠ 技術経営インターンシップⅡ	技術経営インターンシップⅢ 技術経営インターンシップⅣ
	他専門科目	・先端技術とイノベーション ・本学では、他研究科で開講されている専門科目等を学生個人のニーズに合わせて選択可能 (例) 生産管理                      ロボット創造学                      先端電子材料 人間社会と材料                経営工学概論                      エネルギー・環境学 遺伝子工学 生物                無機固体化学                      応用化学特別講義A 電気電子基礎学	
大学院教養・共通科目群	・大学院国際コミュニケーション科目 ・大学院キャリア科目	・大学院総合科目 ・大学院留学生科目	・大学院広域科目 ・大学院文明科目

※括弧内は推奨学年

## 修了要件と期間

修了要件は、標準修業年度2年間で40単位以上修得し、かつプロジェクトレポートの審査に合格することです。なお、40単位には、必修の技術経営講究4単位を含む専攻専門科目を22単位以上、他専門科目を4単位以上、大学院教養・共通科目を2単位以上（社会人学生を除く）、含んでいる必要があります。

## 履修科目の認定制度

本学に入学する前に大学院において修得した授業科目の単位を、本学における授業科目の履修により修得したものと認定することができ、修了必要単位に含めることができます。ただし、認定は15単位を上限とします。

## 1年間での短縮修了について

履修科目の認定制度を利用すると、1年間あるいは1年半での短縮修了が認められます。例えば、大学院における既修得科目14単位の認定を受けた場合、1年間で26単位を修得し、プロジェクトレポートの審査に合格すれば、1年間での短縮修了が認められます。

また、社会人であって、1年間で40単位を修得することができ、その成績が優秀である場合、プロジェクトレポートの審査に合格すれば、特例適用による1年間での修了が認められます。

## 履修モデル

技術経営専攻では、全学支援の体制のもとで学生一人一人が自分の関心・目的に応じてアラカルト的に履修メニューを選択することができ、希望する特定の技術科目や知的財産マネジメント・金融工学の分野を集中・選択的に学習することが可能です。

### (1) 技術経営を総合的に学びたい場合

科目 学年	技術経営戦略科目群	知的財産・ファイナンス・情報 サービスイノベーション科目群	演習・ゼミ・インターンシップ プロジェクト研究	他専門科目 大学院教養・共通科目群	単 位 数
1	前期 経営者論セミナー[2] 企業戦略とイノベーション[2] 技術マーケティング[2] イノベーション論[2]	IPマネジメント[2]	技術経営講究第一[1] リサーチリテラシー[2]		13
	後期 企業実践セミナー[2] 技術組織論[2] R&D戦略[2] 品質マネジメント[2]	組織戦略とICT[2] コーポレートファイナンス[2] イノベーションの標準化[2]	技術経営講究第二[1]	先端技術とイノベーション[2]	17
2	前期 イノベーションと産官学連携[2] 食ビジネス創成論[2]	サービス科学基礎学[2] ネット社会のビジネスモデル[2]	技術経営講究第三[1]	事業創出論[2]	11
	後期 技術者倫理とリスク管理[2]	サービスイノベーション論[2]	技術経営講究第四[1] プロジェクト研究	ベンチャービジネス特論(2)	7
合計	22	14	6	6	48

[ ]は履修単位数



木村 好子さん

学会はもちろん実際のビジネスの現場でも経験豊富な教授・講師の方々との講義や討議をはじめ、学部から進学された学生・留学生と社会人学生、多様なバックグラウンドをもつ方が一緒に切磋琢磨できる場となっています。それに加え、東工大の高い専門性を誇る他の学科の講義・プログラムにも参加できます。日本の産業活性化に貢献できる人材へと全員で成長していける恵まれた環境であることを実感しています。

### (2) 情報・サービスイノベーション分野を核として学びたい場合

科目 学年	技術経営戦略科目群	知的財産・ファイナンス・情報 サービスイノベーション科目群	演習・ゼミ・インターンシップ プロジェクト研究	他専門科目 大学院教養・共通科目群	単 位 数
1	前期 経営者論セミナー[2] イノベーション論[2]	セキュリティマネジメント[2] サービス科学基礎学[2]	技術経営講究第一[1] リサーチ・リテラシー演習[2]	インターネットインフラ特論[2]	13
	後期 企業実践セミナー[2] R&D戦略[2]	テレワーク概論[2] 組織戦略とICT[2] コーポレートファイナンス[2]	技術経営講究第二[1]	先端技術とイノベーション[2]	13
2	前期 コンピテンシー・ディベロップメント[2]	ネット社会のビジネスモデル[2] 知的財産権法[2]	技術経営講究第三[1]		7
	後期 技術者倫理とリスク管理[2]	サービスイノベーション論[2] サービス・イノベーション概論[2]	技術経営講究第四[1] プロジェクト研究	ベンチャービジネス特論[2]	9
合計	12	18	6	6	42

[ ]は履修単位数



井川 甲作さん

近年ITの活用範囲が広がり、企業でITに携わる身としては、専門知識だけではなく、経営戦略、ファイナンス、知財等、幅広い視点から判断することが重要になってきています。MOTでは、自分達が触れている技術が、企業、社会にとってどういった意味合いを持つのか、それら技術をどう活用すれば企業の成長につながるのかを、様々な視点から考えさせられます。こういった貴重な経験が、自分自身の成長につながっていると感じています。

# 各自の将来像に合わせたカスタマイズ履修メニュー

## (3) 知的財産マネジメントの専門家を目指す場合

科目 学年	技術経営戦略科目群	知的財産・ファイナンス・情報 サービスイノベーション科目群	演習・ゼミ・インターンシップ プロジェクト研究	他専門科目 大学院教養・共通科目群	単 位 数
1	前期 経営者論セミナー[2] 技術経営概論[2] イノベーション論[2]	知的財産権法[2] IPマネジメント[2] 実践知的財産保護[2]	技術経営講究第一[1] リサーチ・リテラシー演習[2]		15
	後期 企業実践セミナー[2] 技術組織論[2]	企業経営における知的財産活動[2] R&D戦略と知的財産戦略[2] ライフサイエンス知財と国際制度[2] イノベーションと標準化[2]	技術経営講究第二[1]	先端技術とイノベーション[2] マネジメント特論[2]	17
2	前期 技術マーケティング[2] コンピテンシー・ディベロップメント[2] イノベーションと産官学連携[2]	知的財産権侵害実務[2]	技術経営講究第三[1]		9
	後期		技術経営講究第四[1] プロジェクト研究	ベンチャービジネス特論[2]	3
合計	16	16	6	6	44

[ ]は履修単位数



### 鄭 名杰さん

知的財産に関する講義は、実務経験の豊富な専任教員のほか、企業知的財産部、弁護士、弁理士の客員教員、非常勤講師によって講義が行われます。そのため、法律に関する知識習得だけでなく、授業科目の履修によって、政策による社会の変化を理解し、企業の知財実務を身につけることができます。また、講義ではグループディスカッションが多く、受け身の学習というより自分も情報発信源として、様々なアイデアをぶつけあうことができます。研究室では企業訪問などを通して現場の知的財産マネジメントの情報収集の機会も設けられています。非常に有意義で充実した日々を過ごしています。

## (4) 金融工学についても深い専門知識を学びたい場合

科目 学年	技術経営戦略科目群	知的財産・ファイナンス・情報 サービスイノベーション科目群	演習・ゼミ・インターンシップ プロジェクト研究	他専門科目 大学院教養・共通科目群	単 位 数
1	前期 経営者論セミナー[2] イノベーション論[2]	金融工学[2] 金融リスク管理の最先端[2]	技術経営講究第一[1]	*実解析第一[2] *集合と位相第一[2] *確率と統計第一[2]	15
	後期	計算ファイナンス[2] 国際投資戦略[2] コーポレートファイナンス[2]	技術経営講究第二[1]	先端技術とイノベーション[2]	9
2	前期 ネット社会のビジネスモデル[2]	ファイナンス応用[2] 金融工学持論1[2] 金融リスク・マネジメント[2] セキュリティマネジメント[2]	技術経営講究第三[1]	年金数理[2]	13
	後期		技術経営講究第四[1] プロジェクト研究	ベンチャービジネス特論[2]	3
合計	6	18	4	12	40

[ ]は履修単位数

\*印の科目は学部での開講科目。専攻の判断により、学部の単位も大学院の単位として認められる場合があり、この例は認められる場合の履修例。詳細については、指導教員等と相談する必要があります。



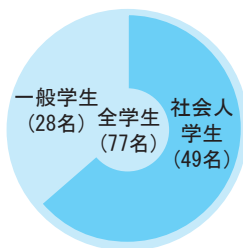
### 篠崎 裕司さん

当研究室は自由度の高い研究室で、自分のスタンスでファイナンスと向き合うことのできる環境です。私の目標は数学を実社会の役に立てること、現在は数学を学びながらファイナンスにおける課題を模索中です。セミナーでは、数理ファイナンスのための基礎数学として確率解析(マリアバン解析)を学んでいます。学びたいことを好きにだけ学ぶことができ、非常に充実した学生生活を送っています。

# 社会人学生と一般学生とのコラボレーション

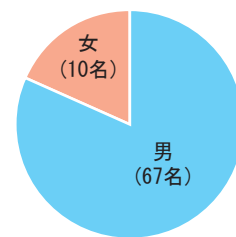
## 在学生の構成比率

（平成24年3月現在）	
社会人学生	49名
一般学生	28名
（上記のうちデュアルディグリー）	3名
（上記のうち留学生）	9名
計	77名



## 在学生の男女比率

（平成24年3月現在）	
男	67名
女	10名
計	77名



## 主な入試日程

8月入試（平成24年10月および平成25年4月入学）

出願期間：6月中旬  
筆答試験：8月下旬  
口頭試験：9月上旬  
合格発表：9月中旬

12月社会人入試特別選抜試験（平成25年4月入学）

出願期間：11月下旬  
試験期日：12月中旬

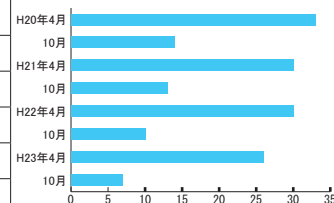
\* 上記の日程は目安であり、実際の日程は大学のWebページでご確認ください。

## 入試状況

平成23年8月、12月入試 （一般、社会人）		
	8月	12月
志願者数	55名	20名
合格者数	30名	13名

## 入学者数

平成20年4月	33名
10月	14名
平成21年4月	30名
10月	13名
平成22年4月	30名
10月	10名
平成23年4月	26名
10月	7名



## 修了生の主な研究内容

プロジェクトレポート
ETC(Energy Technology Centre)低排出型改築プロジェクトにおける自然エネルギー技術・省エネ技術の導入についての調査・分析
プラント・エンジニアリング企業の知的財産活動の分析
Large Deviation Principle for SABR Model（SABRモデルに対する大偏差原理）
異分野先端知識の相互作用によるインパクトと知識波及およびそのメカニズムの評価
自動車メーカーにおけるレース活動の意義に関する研究 -技術開発に着目した考察-
創業研究における効果的な知識統合マネジメント
中小企業の事業発展過程に関する分析 -公的支援のあり方について-
確率ポラリティモデルにおける準閉形式アルゴリズムについて
日本のエンタープライズ系ソフトウェア産業の構造と中小ソフトウェア企業の競争力の研究
IT企業の社内新規事業における内部阻害要因に関する考察
食の「安全、安心」の提供に関する考察
特許の有効性と侵害訴訟の関係に関する諸課題
インクジェット捺染機ビジネスに関する分析
下水道施設維持管理業務における既存受託企業の競争優位の源泉に関する分析と戦略提案
社会貢献活動が業績向上に繋がった中小企業に関する考察
倒産を考慮した企業価値モデルによる最適資本構成
スマート・グリッドのビジネス・エコシステムにおける技術アライアンス研究
被災地支援を目的とした取引プラットフォームにおけるマッチング創出分析・実行
コミュニケーションの満足度における使用メディアの影響に関する研究
新しい課題のイノベーションにおける特許戦略-事例の比較分析-
新規ベンダーによるオフショア開発のコスト分析
ロシアにおけるモノづくり企業の成長要因分析
中国における検索サービス企業の市場参入戦略の分析



# 専門領域をリードする人材となるために

## カリキュラム

イノベーション専攻(博士後期課程)では、技術開発や技術経営についての経験が豊富な社会人を主な対象に、イノベーション講義第一～六を通して指導教員とのゼミ形式の講義を行い、自身もかつ実務経験に基づく学問的な体系化や理論研究を遂行します。

## 基本履修モデル

D1	講究(ゼミ)	【入学時】研究計画策定	・研究論文の査読付き学術雑誌への投稿  ・国内外の研究集会での発表
	講究(ゼミ)	希望すれば、修士課程向け授業の履修も可能。また、リサーチ・アシスタント(RA)やティーチング・アシスタント(TA)として活動するチャンスもあります。	
D2	講究(ゼミ)	【入学後1年半または2年経過時点】中間発表(進捗報告および研究科教員と意見交換をする場)	
	講究(ゼミ)		
D3	講究(ゼミ)		
	講究(ゼミ)	【修了予定約4～5ヶ月前】博士論文ドラフト作成と予備審査	
		【修了予定約3ヶ月前】博士論文発表会	
		【修了予定約2ヶ月前】最終試験	
	博士取得修了		

## 修了要件と期間

博士論文を作成し合格することが修了要件となり、博士(技術経営)、博士(工学)、博士(学術)のいずれかの学位を取得できます。標準修業年限は3年ですが、入学時に既に技術経営に関連した論文等で顕著な業績があり、入学後の学業成績も優秀な場合には最低1年でも修了可能です。

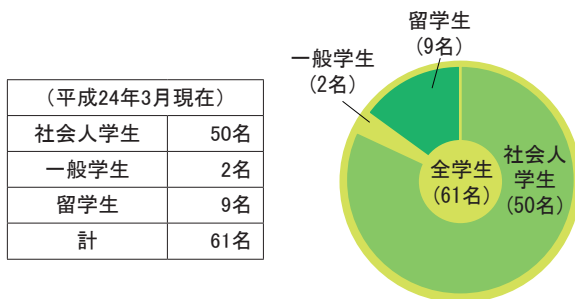
## 短縮履修モデル

入学の段階で、博士論文のテーマに関連する優秀な研究業績がある場合には、このような短縮修了(最短1年)も可能です。※毎年3月、6月、9月、12月に修了する機会があります。

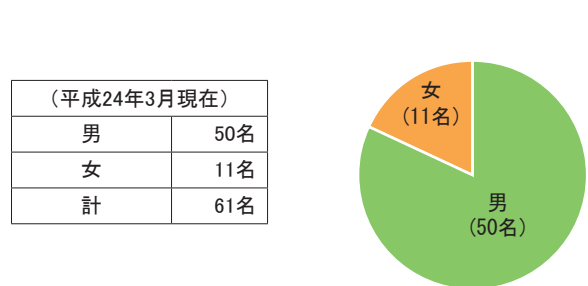
(例:入学後1年半で修了する場合)

D1	講究(ゼミ)	【入学時】研究計画策定	・研究論文の査読付き学術雑誌への投稿  ・国内外の研究集会での発表
	講究(ゼミ)		
D2	講究(ゼミ)	【修了予定約4～5ヶ月前】博士論文ドラフト作成と予備審査	
		【修了予定約3ヶ月前】博士論文発表会	
		【修了予定約2ヶ月前】最終試験	
		博士取得修了	

## 在学生の構成比率



## 在学生の男女比率



## 主な入試日程

### 8月入試(平成24年10月入学)

出願期間: 7月上旬

口頭試問: 8月下旬

合格発表: 9月中旬

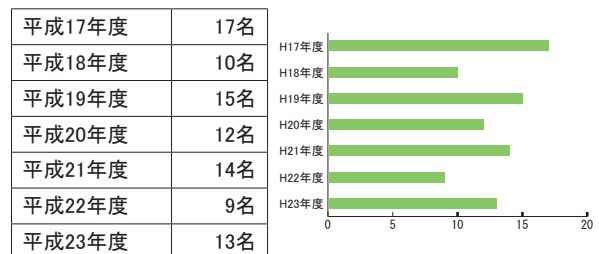
### 2月入試(平成25年4月入学)

出願期間: 1月下旬

口頭試問: 2月中旬

\*上記の日程は目安であり、正確な日程は大学のWebページでご確認ください。

## 入学者数



## 博士修了者の主な研究内容

博士論文
Innovation Dynamism of Material Technology : Empirical Analysis of Lithium Ion Battery Industry
A study on cheating detectable (k,n) threshold schemes
Co-evolution between Actors and Technologies Related to Technological Changes of Mobile Telephony towards 4G: The Case of Indonesia and Japan
Six Sigma Initiative for Innovation in Management System, Product, and Service
Adopting TQM for Innovation of Manufacturing Companies in Developing Countries : an Empirical Study of India and Thailand.

## 特徴

技術を創造し、知的資産として事業化・社会化するイノベーション創出サイクルのマネジメントに秀でた実践的人材と研究者を育成します。

## 育てたい人材像

将来、企業のCTO(最高技術責任者)やCEO(最高経営責任者)として、また社会の幅広い分野におけるリーダーとして活躍できる「グローバルな視野と高い倫理観を持ち、イノベーション創出のリーダーとして活躍できる能力を持つ人材」

## 専任教員



**長田 洋 教授** (専任教員)  
 専門分野 オペレーション戦略、総合的品質経営、商品開発マネジメント  
 担当科目 品質マネジメント、技術マーケティング  
 学位 博士(工学)(東京工業大学)、工学修士(東京大学)  
 経歴 山梨大学大学院教授、旭化成特殊樹脂開発部長

企業および社会が抱える課題を解決するためのマネジメント能力の習得をめざします。また企業経営の事例に基づいた講義やゼミを通して技術経営の考え方や方法論を実践できるリーダーを育成したいと思います。



**宮崎 久美子 教授** (専任教員)  
 専門分野 技術経営戦略、科学技術政策、ハイテクセクターイノベーションシステムなど  
 担当科目 技術経営概論、技術戦略論、戦略的ディベートの実践  
 学位 Ph.D.(サセックス大学SPRU)、MBA(INSEAD)、修士(ケンブリッジ大学)  
 経歴 東京工業大学工学部教授・社会理工学研究科助教、NEC

技術をベースとした競争力を構築するための戦略について、企業、産業、あるいは国家を対象とし、国際的な視野に基づいて分析、立案することができる、産、官、学の場で活躍できるリーダーを育成します。



**藤村 修三 教授** (専任教員)  
 専門分野 イノベーション理論、技術者のキャリア、サイエンス型産業など  
 担当科目 イノベーション論、R&D戦略  
 学位 博士(工学)(千葉大学)  
 経歴 一橋大学イノベーション研究センター客員教授、富士通研究所

マネジメントには自然科学における相対性理論や量子力学のような汎用理論はまだありません。マネジメント上の課題を解決するためには、独自に情報を集め独自の理論を作ることが必要です。そのためのチャレンジの場を提供しています。考えることを楽しみましょう。



**辻本 将晴 准教授** (専任教員)  
 専門分野 経営戦略論、経営組織論  
 担当科目 企業戦略とイノベーション、技術組織論  
 学位 博士(政策・メディア)(慶応義塾大学)  
 経歴 法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科(MBA)准教授

技術経営(イノベーション研究)は長年の蓄積がある学問分野です。近年は特に、科学技術・市場・国際環境の急速かつ複雑な変化に伴い、その重要性が広く認められ研究が進んでいます。蓄積された知見を吸収しつつ、個人・企業・政策の課題解決に自ら取り組み、新たな知見を生み出す意欲のある方の参加を期待しています。



**梶川 裕矢 准教授** (専任教員)  
 専門分野 技術経営学、科学技術政策学、情報学、サステナビリティ学、工学  
 担当科目 技術経営情報分析(予定)、イノベーションのための知識工学(予定)  
 学位 博士(工学)東京大学  
 経歴 東京大学大学院工学系研究科特任講師

学生の皆さんと一緒に、世界の技術経営に関する知のフロンティアを開拓し続けると同時に、その成果を現場に還元していきたいと思っています。



**石川 孝子 助教** (専任教員)  
 専門分野 キャリア発達論、組織論  
 学位 慶応義塾大学大学院博士課程単位取得修了、MBA(ラトガース大学)  
 経歴 横浜国立大学助手、コニカ株式会社技術開発本部

東工大社会人教育院の業務を担当しています。学位取得前後のキャリアについて日本人女性をサンプルに事例研究、また、高齢社会で増加するキャリア形成における老親介護の課題の解決などをテーマに研究しています。

## 客員教員



**滝 久雄 教授** (客員教授)  
 現職 (株)ぐるなび代表取締役会長、(株)NKB取締役社長  
 学歴 東京工業大学理工学部卒  
 担当 技術経営全般



**深谷 紘一 教授** (客員教授)  
 現職 (株)デンソー取締役会長  
 学歴 東京工業大学理工学部卒  
 担当 技術経営全般



**鈴木 良隆 教授** (客員教授)  
 現職 一橋大学名誉教授  
 学位 経済学修士(一橋大学)  
 担当科目 経営の歴史と理念



**中村 昌允 教授** (客員教授)  
 現職 東京農工大学大学院技術経営研究科教授  
 学位 博士(工学)(埼玉大学)  
 担当科目 技術者倫理とリスク管理

## 修了生の主な就職先

ソニー、コニカミノルタ、旭化成、積水化学工業、日東電工、旭硝子、NTTデータ、テルモ、味の素、P&G、JPモルガン、トーマツ、住友商事、リクルート、アクセンチュア、ブルームバーグジャパン、アイズファクトリー、長瀬産業、ゼンショー など

# 知的財産マネジメント分野

## 特徴

知的財産の創造・保護・活用プロセスにおける知的財産マネジメントの実践的な知識・スキルが習得できます。先端技術に加えて、技術戦略分野の知識習得によりイノベーションにおける知的財産の意義を理解し、自分で考える能力を身につける教育を目指しています。技術・法律・マネジメントの視点から知的財産のテーマにおいて新たな分野を切り開く挑戦的な研究に取り組んでいます。

## 育てたい人材像

学生は、提供されている実践的な授業科目により知識やスキルを習得し企業において即戦力となることを期待します。企業・官庁などの社会人には、知的財産業務を改めて見直すとともに、技術知識、技術経営の知識の習得と実践的な研究により有用な成果を得て、実際の業務において活用されることを期待しています。いずれも、将来CIPPOを目指す人材を育成します。

## 専任教員



**佐伯 とも子 教授** (専任教員)  
 専門分野 知的財産戦略、ライフサイエンス知財  
 担当科目 実践知的財産保護、知的財産権法、R&D戦略と知的財産戦略、ライフサイエンス知財と国際制度  
 学位・資格 薬学修士(大阪大学)、弁理士  
 経歴 (株)ファンケル知財部長、特許庁審査長

今日、経営は知的財産と無関係ではられません。知的財産の基盤であり、その保護・活用に必要な知識習得を目指し、今後大きな発展が期待される知的財産マネジメント分野での研究への積極的な取組を期待します。



**田辺 孝二 教授** (専任教員)  
 専門分野 標準化戦略、産官学連携  
 担当科目 イノベーションと標準化、イノベーションと産官学連携、経営者論セミナー  
 学位 博士(学術)(東京工業大学)  
 経歴 経済産業省中国経済産業局長・調査統計部長

企業・地域・国家の競争力の鍵となるイノベーションを、構想する能力(Vision)、不透明な状況の下でチャレンジする能力(Passion)、リーダーとして遂行する能力(Action)の修得を応援します。



**田中 義敏 教授** (専任教員)  
 専門分野 知的財産マネジメント、コンピテンシー  
 担当科目 企業経営における知的財産活動、IPマネジメント、コンピテンシー・ディベロップメント  
 学位・資格 工学修士(東京工業大学)、弁理士(特定侵害訴訟代理付記録)  
 経歴 日本テトラパック(株)人事・総務・法務統括部長、知的財産権部長、特許庁

知的財産を如何に企業経営に取り込むかが、知財立国を目指す我が国の将来、そして皆さん自身の将来にも大きく関わってきます。将来ビジョンに向かって目標を明確に掲げ、今、何をなすべきかを考えて行動する習性を身につけて欲しいと思います。

## 客員教員



**広崎 膨太郎 教授** (客員教授)  
 現職 (株)日本電気特別顧問・前代表取締役執行役員副社長  
 学位 工学博士(東京大学)  
 担当 知的財産マネジメント全般



**水谷 直樹 教授** (客員教授)  
 現職 水谷法律特許事務所代表  
 学歴・資格 早稲田大学法学部卒、東京工業大学工学部卒、弁理士、弁理士  
 担当科目 知的財産権侵害実務



**宮垣 聡 教授** (客員教授)  
 現職 アンダーソン・毛利・友常法律事務所パートナー  
 学歴・資格 中央大学法学部卒、弁理士、弁理士  
 担当科目 知的財産権法、実践知的財産保護



**加藤 恒 教授** (客員教授)  
 現職 三菱電機(株)知的財産渉外部長  
 学位・資格 工学修士(東京工業大学)、弁理士  
 担当科目 R&D戦略と知的財産戦略

## 非常勤講師



**佐藤 一雄 講師** (非常勤講師)  
 現職 第一三共(株)知的財産部長  
 学位・資格 農学博士(東京大学)  
 担当科目 R&D戦略と知的財産戦略



**山田 勇毅 講師** (非常勤講師)  
 現職等 青和特許法律事務所、元クライアントジャパンライセンスマネージャー(東アジア)、元特許庁審査官、審判官  
 学位・資格 工学修士(東京工業大学)、弁理士(特定侵害訴訟代理付記録)  
 担当科目 R&D戦略と知的財産戦略



**杉田 禎浩 講師** (非常勤講師)  
 現職 虎ノ門総合法律事務所  
 学位・資格 中央大学法学部卒、弁理士  
 担当科目 知的財産権法

## 修了生の主な就職先

キヤノン、トヨタ自動車、日本電気、ソニー、任天堂、カネボウ化粧品、日本精工、日立製作所、三菱電機、マーステック、住友化学、三菱樹脂、ソフトバンクテレコム、グーグル、特許庁、タイ国特許庁、野村証券、日興アセットマネジメント、アビームコンサルティング、日興シティグループ証券、チュラロンコン大学、国際協力機構 など

### 特徴

#### ・教育

サービスイノベーション分野は、サービスサイエンス・情報通信技術・情報セキュリティの3つのエリアで構成されており、新たな知識社会におけるリーダー人材を育成することを目的とした教育を行います。

#### ・研究

エネルギー、環境、交通、医療、福祉などSocial Service Systemにおける問題解決とイノベーション、企業におけるサービスの研究開発戦略と実践、組織戦略としてのテレワーク、持続可能な地域社会モデル、Eコマースの評価・分析モデル、社会全体の情報セキュリティのレベルを上げるための研究など。

### 育てたい人材像

社会・組織におけるイノベーション・リーダー、問題の解決・発見能力を持った人材、Global で活躍できる人材、成長と持続的世界観のバランス感覚のある人材、情報を守るだけでなく、情報をいかに活用するかといった視点で情報セキュリティを考え、方策を打ち出すことができる人材。

### 専任教員



比嘉 邦彦 教授（専任教員）

専門分野 テレワーク、eコマース、ICTツール、ICTによる組織改革、地域活性化など

担当科目 ネット社会のビジネスモデル、組織戦略とICT

学位 Ph.D.(アリゾナ大学)

経歴 東京工業大学理財工学センター教授、香港科学技術大学助教授

技術経営によるメリットを最大限に活かし、イノベーションが継続して起こるような組織になるためには、組織革新がキーポイントになります。その様な組織革新のためのモデル、および、支援ツールの構築と実現を目指しています。



日高 一義 教授（専任教員）

専門分野 サービスサイエンス、オペレーションズ・リサーチ、研究開発マネジメント

担当科目 サービス・イノベーション論、サービス科学基礎学

学位 博士(理学)(早稲田大学)、工学修士(東京工業大学)

経歴 北陸先端科学技術大学教授、日本アイ・ピー・エム(株)東京基礎研究所研究部長

サービスを科学する対象としてとらえ、その生産性と質を向上させ、イノベーションを実現する為の「サービス科学(サイエンス)」を確立することを通し、次の時代の社会・経済の発展を皆で実現しましょう。



尾形 わかは 准教授（専任教員）

専門分野 情報セキュリティ、暗号理論

担当科目 セキュリティマネジメント、リサーチ・リテラシー演習

学位 博士(工学)(東京工業大学)

経歴 東京工業大学理財工学センター助教授

企業における情報セキュリティの重要性は言うまでもなく、今や情報セキュリティが新たなビジネスチャンスとなる時代です。情報セキュリティを身につけることによって、新たなビジネスモデルを生み出せる人材を育成します。

### 客員教員



岩野 和生 教授（客員教授）

現職 日本アイ・ピー・エム(株)執行役員VP

学位 Ph.D.(プリンストン大学)

担当 サービスイノベーション全般



佐堀 大輔 教授（客員教授）

現職 キヤノン(株)事業開発企画部

学位 博士(学術)(東京工業大学)

担当科目 テレワーク概論、リサーチリテラシー

### 修了生の主な就職先

富士通、三菱総合研究所、アクセンチュア、シービー・リチャードエリス、サイバーエージェント、オイシックス、サイジニア(創業)、東京理科大学 など

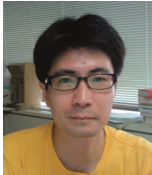
## 特徴

数理ファイナンス/金融工学の理論の修得・開発を目指しています。特に、金融商品の適正評価および金融・保険リスク管理を主たるテーマとして数学的な立場から教育・研究を行っています。

## 育てたい人材像

確率解析や数値解析を修得し、数理ファイナンス/金融工学の高度な専門家として企業等において活躍できる人材の育成を目指しています。

## 専任教員



二宮 祥一 教授 (専任教員)

専門分野 数理ファイナンス、確率論  
 担当科目 金融工学、ファイナンス応用  
 学位 東京大学理学部数学科卒業、東京大学大学院理学系研究科修士課程修了、東京大学大学院数理科学研究科博士課程修了(博士: 数理科学)  
 経歴 日本IBM東京基礎研究所、東京工業大学理財工学研究センター助教授を経て現職

数理ファイナンス/金融工学の知識を駆使して、デリバティブの価格付けやリスク管理に携わる、Quantsと呼ばれる新しい数理専門職が非常に重要になっています。Quants、あるいはこの分野の研究者の養成をしたいと思います。



中野 張 准教授 (専任教員)

専門分野 数理ファイナンス、確率論  
 担当科目 コーポレート・ファイナンス、金融リスク・マネジメント  
 学位 北海道大学大学院理学研究科博士課程修了(博士: 理学)  
 経歴 日本学術振興会特別研究員(PD)、大阪大学金融・保険教育研究センター特任助手、科学技術振興機構さがけ研究者を経て現職

近年の数理ファイナンスは、金融商品の価格付けの理論にとどまらず、より広い意味でのリスクを扱う学問として発展してきています。この分野の基礎理論の習得により、企業における様々なリスク管理の問題に対して数理的にアプローチできる人材の育成を目指します。

## 連携併任教員



中川 秀敏 准教授 (連携併任)

職歴 株式会社エムティービーインベストメントテクノロジー研究所、東京工業大学理財工学研究センター助教授、東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科准教授を経て現在は一橋大学大学院国際企業戦略研究科准教授  
 学位 東京大学大学院数理科学研究科博士課程修了(博士: 数理科学)  
 担当 数理ファイナンス全般

## 客員教員



森本 祐司 教授 (客員教授)

職歴 東京海上火災保険(株)、日本銀行金融研究所、モルガン・スタンレー証券会社、インテグレイテッド・ファイナンス証券株式会社等を経てキャピタルコンサルティング株式会社代表取締役  
 学位 東京大学理学部数学科卒業、マサチューセッツ工科大学経営大学院修了(経営学修士)  
 担当科目 金融リスク管理の最先端

深谷 竜司 教授 (客員教授)

職歴 第一生命保険、みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社、DIAMアセットマネジメント株式会社、かんぽ生命を経て第一生命保険株式会社  
 学位 東京大学理学部数学科卒業、スタンフォード大学工学系大学院経済システム工学修士、東京大学大学院数理科学研究科博士課程修了(博士: 数理科学)  
 担当科目 金融工学特論1、国際投資戦略



上村 昌司 准教授 (客員准教授)

職歴 一橋大学大学院国際企業戦略研究科講師、助手を経て現在は麗澤大学経済学部准教授  
 学位 東京工業大学大学院情報理工学研究科博士課程修了(博士: 理学)  
 担当科目 計算ファイナンス

## 修了生の主な就職先

日本銀行、ゴールドマンサックス、JPモルガンアセットマネジメント、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、東京三菱UFJ銀行、UBS証券、みずほ第一フィナンシャルテクノロジー、みずほ銀行、かんぽ生命、PwCアドバイザリー、三菱総合研究所、中部電力 など

協力講座教員（技術経営専攻）

教員名	職名	所属	専門分野
高柳 邦夫	教授	理工学研究科 物性物理学専攻	固体物性、表面界面物性
高橋 孝志	教授	理工学研究科 応用化学専攻	天然物合成、創薬工学
廣瀬 茂男	教授	理工学研究科 機械宇宙システム専攻	ロボット工学
平井 秀一郎	教授	理工学研究科 機械制御システム専攻	熱工学、流体工学
赤木 泰文	教授	理工学研究科 電気電子工学専攻	パワーエレクトロニクス
小長井 誠	教授	理工学研究科 電子物理工学専攻	半導体物性・デバイス
半田 宏	教授	生命理工学研究科 生命情報専攻	バイオテクノロジー
中村 聡	教授	生命理工学研究科 生物プロセス専攻	タンパク質工学・遺伝子工学・進化分子工学
菅野 了次	教授	総合理工学研究科 物質電子化学専攻	固体化学・電気化学・無機化学
三島 良直	教授	総合理工学研究科 材料物理科学専攻	耐熱材料・熱電材料
中嶋 正之	教授	情報理工学研究科 計算工学専攻	計算機画像処理
圓川 隆夫	教授	社会理工学研究科 経営工学専攻	生産管理、品質管理

兼任教員

教員名	職名	所属	専門分野
森 欣次	教授	理工学研究科 機械宇宙システム専攻	分散コンピューティング、自律分散システム
猪原 健弘	教授	社会理工学研究科 価値システム専攻	社会システムモデリング、数論的意思決定理論、技術とシステムの価値評価
木嶋 恭一	教授	社会理工学研究科 価値システム専攻	意思決定システム科学、システムマネジメント
水野 眞治	教授	社会理工学研究科 経営工学専攻	オペレーションズ・リサーチ、金融工学、数値的最適化
妹尾 大	准教授	社会理工学研究科 経営工学専攻	経営組織論、経営戦略論、知識・情報システム
西條 美紀	教授	留学生センター	社会言語学、科学技術コミュニケーション、科学技術リテラシー

寄附講座

名称

東京工業大学創立130周年記念  
「ぐるなび」食の未来創成寄附講座

設置期間

平成22年10月～平成26年9月（4年間）

目的

滝久雄氏（株式会社ぐるなび代表取締役会長）および株式会社ぐるなびからの寄附により設立された寄附講座です。「日本の『食』の知恵を世界のものに」を合い言葉に、食を起点とした新しいビジネスの創出に貢献するとともに、食に係わる諸課題をグローバルな視点で提案・解決できる人材の育成を目指しています。

活動

食・農・水分野でのイノベーション、食文化、食ビジネス等の観点から調査・研究を行っています。学内外の研究者、経営者、政策担当者等産・学・官の幅広い分野の方々とネットワークを築き、「知の共有」から新たな価値の創出を目指していきます。大学院科目として「食ビジネス創成論」、「食の未来と技術」、学部科目として「食料生産と未来技術」を開講しています。公開講義を定期的に開催するとともに、平成24年より、食文化研究を系統的に進める研究会が始まりました。

寄附講座教員



高井 陸雄 特任教授

専門分野 食品生産システム、食品工学、食品冷凍学、安全工学

学位 博士(工学)(東京大学)

経歴 元東京海洋大学学長、東京農工大学監事(現職)

「伝統」を科学し産業の土俵に載せることは楽しそうであり、難しいかもしれませんが、そこには人の知恵が詰まっているからです。「食」の技術研究の面白さはこんなところにあるのかもしれない。



櫻谷 満一 特任准教授

専門分野 農業分野の技術開発

経歴 前農林水産省農林水産技術会議事務局研究開発官(食料戦略)研究専門官

食料自給率の低下、食品産業の競争激化等が進む中で、「食」の世界においても、新しい技術や価値によって市場を創造していくことが求められています。「食」に関心のある方の幅広いネットワーク構築を進めています。



阿良田 麻里子 特任助教

専門分野 文化人類学、言語人類学、食文化研究、地域研究(インドネシア)

学位 言語学修士(東京外国語大学)、博士(文学)(総合研究大学院大学)

経歴 摂南大学・同志社女子大学・武庫川女子大学・京都産業大学等非常勤講師、国立民族学博物館外来研究員を経て現職。

生活文化の中には、あえて説明するまでもないほど当たり前と感じられる事柄でも、異文化を背景にもつ人にとっては理解に苦しむことが多々あります。多文化共生時代を生き抜くために、自分の「当たり前」を疑ってみる柔軟な姿勢を身につけましょう。

# 働きながらMOTを学び、キャリアに活かす

## キャリアアップMOTとは

- ・ 社会人教育院のプログラムとして、本研究科が実施するMOT(技術経営)に関するノンディグリー・サーティフィケート・プログラムです。
- ・ 平日夜、週1回の通学など、社会人の方が働きながらMOTの学びを通じて、キャリア形成を図ることを支援する取り組みです。多様な業界・業種から、経営者、マネージャー、若手など多くの社会人が受講しています。
- ・ 学位を得ることができるディグリー・プログラムではなく、プログラム受講の修了を認定するサーティフィケート・プログラムです。修了者にはイノベーションマネジメント研究科長名の「修了証書」を交付いたします。修了評価は、出席状況を含め、コースごとに行います。
- ・ 平日の夜を中心にMOTに関連する各コースを開催しています。受講場所はいずれも田町キャンパスです。

## プログラムの位置づけ

- ・ 次世代の企業経営を担う人材など、産業界で活躍する人々が必要とする大学院レベルのMOTに関するコースを提供します。
- ・ イノベーションマネジメント研究科のMOT教育のノウハウを活かし、現場・実践を意識したカリキュラム(実務経験を有する講師陣、シミュレーション教材、ケース教材等)、少人数制による質の高い講義を提供し、受講生同士が学び合うグループ課題にも取り組んでいただきます。
- ・ 講師陣は、本研究科の教員に加え、外部から各分野の最前線で活躍する方を講師として招聘しています。

## コースの紹介

コースと実績(受講者数)は次の通りです(平成24年2月現在)。1回2時間または1日単位の構成です。

コース名	受講対象者	概要	23年度実績
エッセシャルMOTコース (1年) 全36回	次世代の企業経営を担う人材(若手後継者、技術系管理職、経営企画職、ベンチャー企業経営者、等)	「イノベーション論」「企業経営とMOT」など、MOTのエッセンス(12科目)を1年間に渡って学ぶコースです。	16名
エッセシャルMOT秋季コース (半年) 全24回	次世代の企業経営を担う人材(若手後継者、技術系管理職、経営企画職、ベンチャー企業経営者、等)	「エッセシャルMOT」のカリキュラムをベースとして、半年間で学ぶことができるコースです。	18名
知的財産戦略コース (4ヶ月) 全12回	企業の知的財産のマネジメントや活用に関わる人材(知財部門担当、特許事務所、コンサルタント等)	知的財産と経営との関係性を理解しつつ、企業等の競争力強化に貢献できる知的財産戦略をデザインし、マネジメントできる力を養うことを目指すコースです。	12名
サービスイノベーション集中コース (1ヶ月) 全8回	次世代の企業経営を担う人材、組織・個人にとって価値のある新たなサービス(無形財)を創出することが求められる人材	「サービスイノベーション論」「ICTを活用した経営戦略」など、サービスイノベーションの実現に必要なエッセンスを短期間で集中的に学びます。	6名
エグゼクティブMOT集中セミナー (3日間)	イノベーションの推進に責任のある経営者や企業幹部の方々、MOTを短期間で学びたい幹部の方々	経営者や技術企画担当幹部などが、国際的に著名なMOT教育の第一人者からMOTの本質を集中的に学ぶセミナーです。	13名
アドバンスMOTコース (半年) 全24回	次世代の企業経営を担う人材(MOTや経営に関連する基本的な知識や考え方、実務経験を有する方)	“マネジメントの質を高める(MOTを創造的に活用する)”ために、MOTの学びを通じて論理的に考え、戦略的・創造的技術経営を実践できる力の習得を目指すコースです。	7名
ストラテジックSCMコース 春期・秋期(4ヶ月) 全15回	企業の経営企画を担当する経営幹部・スタッフ、サプライチェーンの計画・設計・管理・運営を担う人材	幅広い経営的な視点からSCM(サプライチェーンマネジメント)への理解を深めると共に、経営科学的なアプローチも学ぶコースです。春期と秋期の年2回開催しています。	各 20名

## 受講された方の声

- 自らがイノベーションを考えなければならないということを肌身で感じられた(エッセシャルMOT)
- 回数を重ねるにつれて講義が面白くなってきました。東京工業大学ならではの先端的なマネジメントの知識を習得することができました(エッセシャルMOT秋季)
- 企業において、日本において、知的財産の創造、保護活用が重要であること、各部署、各機関との連携が大切であることへの理解を深めました。また、学ぶことの楽しさ、大切さに気付かされました。今後も学びの継続とアウトプットをしていきたいと思えます(知的財産戦略)
- サービスのような無形のものでイノベーションを起こし、価値を生み出していくための気づきが得られた(サービスイノベーション集中)
- 「社内で長い間イノベーションとはなにか?」「どのようにすればイノベティブな文化が育つのか」を考え続けています。正直なところなかなか解は見つかっていませんが、チルキー先生のMOTへの(特に次世代MOTへの)情熱に触れることができ、あきらめずに考える元気をいただきました(エグゼクティブMOT集中セミナー)
- 様々な講師の方からの講義や具体的な事例に関する議論により、SCMIに対する知識や考え方、あるいは第三者への分かりやすい伝え方について、理解を深めることができた(ストラテジックSCM)

## お問い合わせ

お問い合わせ先 cumot-info@mot.titech.ac.jp

詳細・最新情報は、専用Webサイトをご参照ください。 <http://www.mot.titech.ac.jp/cumot/>

## キャリアアップMOT担当教員

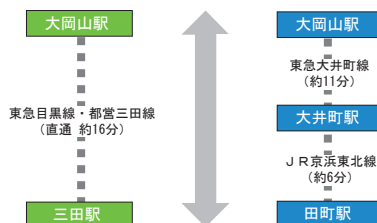


古俣 升雄 特任助教  
専門分野 キャリア研究、社会人学習  
学歴 東洋大学 経済学部卒

## ■大岡山キャンパス

所在地：〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1  
西9号館西棟

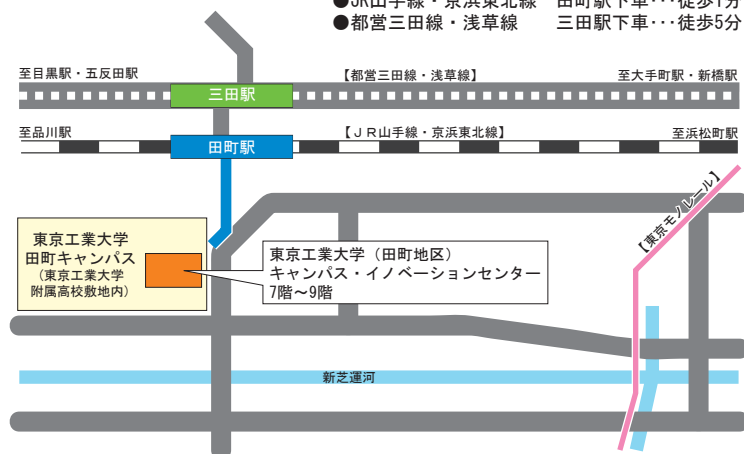
●東急目黒線・大井町線 大岡山駅下車…徒歩1分



## ■田町キャンパス

所在地：〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6  
キャンパス・イノベーションセンター

●JR山手線・京浜東北線 田町駅下車…徒歩1分  
●都営三田線・浅草線 三田駅下車…徒歩5分



**TOKYO TECH**  
Pursuing Excellence

国立大学法人 東京工業大学  
大学院イノベーションマネジメント研究科

Tel: 03-5734-3516 (大岡山) (研究科に関するお問い合わせ)

03-3454-8912 (田町)

URL: <http://www.mot.titech.ac.jp/>

E-mail: [inquiry@mot.titech.ac.jp](mailto:inquiry@mot.titech.ac.jp)

<平成24年3月作成>